

大隅教育事務所だより

【一隅を照らす山と野と者の教育】



鹿屋市「かのやばら園」の花火

第3号

平成29年

9月27日

発行

“秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども
風の音にぞ 驚かれぬる (藤原敏行)”

初秋の候、朝夕、だいぶ過ごしやすくなりました。学校では、日々の学習指導、生徒指導に加え、全国学力学習状況調査の分析や活用、体育祭・運動会等々、熱が入っておられることと思います。

まだまだ日中は暑い日が続きます。2学期もどうぞ宜しくお願いします。

計画学校訪問

大隅教育事務所では、各市町教育委員会と合同で学校訪問を行っています。本年度は、管内30校(小22校,中8校)の小中学校訪問を計画し、1学期は17校を訪問しました。

掃除が行き届いた学校、児童・生徒の元気な挨拶が飛び交う学校、学力向上や生徒指導に積極的に取り組んでいる学校など、様々な教育活動が展開され、その「熱」を肌で感じました。残る13校においても、よろしくお願い致します。

【地区の研修会の紹介】(7月~9月)

7月中旬~9月中旬の研修会の一部を紹介します。

【地区臨時的任用教員研修会】 7月24日(月)



模擬授業の様子

小学校20人、中学校6人の参加者があり、人権教育・社会教育等の指導、臨床心理相談員による講義・演習、模擬授業等が行われました。模擬授業(左写真)では、「自分の授業を改善するヒントを得た」、「授業の日頃の悩みや解決の糸口が見つかった」との感想が寄せられました。

【地区フレッシュ研修「宿泊研修」】 7月25日(火)~28日

3泊4日の宿泊研修で、道德教育、社会教育等に関する座学、キャンプファイヤーや飯盒炊爨、救急救命講習や農業体験等を行いました。参加者28人が親睦を深め、教師の資質向上を図り、職責感の自覚を新たにす充実した研修会となりました。特に、農業体験



農業体験



キャンプファイヤー

後のオキス(株)社長の講話では「農業を通じて地域の活性化を図る思いや、昔ながらの知恵を生かしたアイデアに強く感銘を受けた」「教職とは違っても『働く』ことについてとても考えさせられた」等の初任者の感想があり、大いに刺激を受けました。

【作文・理科・図画作品審査会(結果等)】

今年もたくさんの出品をありがとうございました。

受賞、おめでとうございます。

【県図画作品展最優秀学校賞】鹿屋市立吾平中学校

【県図画作品展優秀学校賞】鹿屋市立田崎中学校

次年度に向けて

QRコードから、作文や理科の審査評をご覧ください。児童生徒の指導に生かしてください。



県・地区研究協力校の公開について(管内)

今後の公開を紹介します。積極的な参加を！！

平成29年10月13日(金) 小中高連携

場所：垂水市立垂水中央中学校

テーマ：生徒の円滑な接続を図る小中高連携の在り方
~小中高連携の基盤づくりを通して~

平成29年10月24日(火) キャリア教育

場所：肝付町立波野中学校

テーマ：「人・自然・文化」との関わり合いの中で、自立していく生徒の育成
~自立を支援する指導の工夫~

平成29年10月27日(金) 幼稚園教育

場所：ねじめ幼稚園、池之原幼稚園、山重幼稚園

テーマ：心豊かな幼児を育み、小学校教育へつなぐ支援
~心豊かな幼児を育み、小学校教育へつなぐ支援の工夫
~幼児・児童、教員間の交流活動を通して~

平成29年10月31日(火) 体育

場所：曾於市立財部北小学校

テーマ：意欲的に運動に取り組み、体力向上につなげる
子供の育成 ~「少人数」の特性を生かした授業・環境づくりを通して~

平成29年11月16日(木) 学力向上(算数)

場所：志布志市立安楽小学校

テーマ：意欲的に学び合い、思考力・表現力を発揮させる
算数科指導法の工夫

平成29年11月29日(水) 魅力ある学校づくりアワード

場所：鹿屋市立鹿屋東中学校

テーマ：「生徒の自己有用感・仲間意識が発揮される学級・学年・学校づくりをめざして」
~学び合いを取り入れた授業展開と共感的人間関係を育む教育活動を通して~

平成29年12月1日(金) 指導法改善

場所：大崎町立大崎小学校

テーマ：子供たちが自分の考えを主体的に深める国語科
学習指導法の創造 ~「学び合い」を大切に
した授業を目指して~

平成30年1月31日(水) 学力向上(算数)

場所：曾於市立岩川小学校

テーマ：生き生きと学ぶ岩川の子供の育成
~算数科での学び合いを通して~

【第2回大隅地区校長研修会】 8月2日(水)

県PR・観光戦略部の専門員の「大隅での明治維新を考える」と題した講話や、ワールドカフェ形式の校長先生方の自由な意見交換等が行われました。



講話の様子(全体会場)

【おおすすめ学力向上プロジェクト会議】

【オープンサポート教科フォーラム】 8月29日(火)

鹿児島市立伊敷中学校から講師をお招きし、『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指した授業改善」と題した実践発表を



模擬授業及び授業説明の様子

聞きました。教科別研究会では、プロジェクト委員が模擬授業でモデル授業案(思考力を発揮させる授業)を提案しました。次回(12月13日)、更に練り上げてモデル授業の完成を目指します。

特集① 特別支援教育

1 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内連携体制は整っていますか？

平成29年度特別支援教育コーディネーター養成研修会が8月17日(木)に、末吉総合センターで行われました。地区内外から約50人の参加者があり、特別支援コーディネーターとしての役割や発達障害のある子どもの理解と指導・支援の在り方等について研修を深めました。

特別支援教育コーディネーターは、特別支援教育を推進していく上でキーパーソン的な存在です。

～特別支援教育コーディネーターの役割～

- 校外との関係者との連絡調整
- 保護者に対する相談窓口
- 担任への支援
- 巡回相談や専門家チームとの連携
- 校内委員会の推進



2 学校間連携の取組状況はどうですか？

大隅教育事務所では、本年度、学校間連携コーディネーターが1人配置され、計画的に学校訪問し、学校間の連携の状況について、情報収集や意見交換を行っています。(9/1現在で、小学校24校、中学校12校を訪問) 訪問先の学校から出された成果と課題の一部について紹介します。

○成果

- ・ 移行支援シート等を活用しながら引継ぎを行う支援や指導体制が整えやすくなった。
- ・ 引継ぎ後、すぐに全職員で情報を共有するこ

とにより、配慮すべきことが担当へ確実に伝えられ、個々への課題への対応につなげることができた。

- ・ 細やかな情報やより必要な情報について学校間で確認することができた。

○課題

- ・ 引き継いだ内容が、全職員に共有されていないことがある。
- ・ 引き継ぎ後の支援や指導の状況について確認がしにくい。

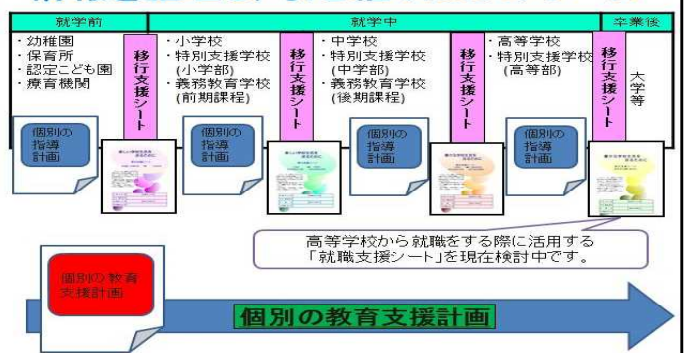
県教育委員会では、特別な支援が必要な児童生徒が就学、進学する際の引継ぎの充実を図るため、移行支援シートの活用を推進しています。

移行支援シートへの理解を進め、より多くの活用を図るために、改めて移行支援シートの様式及び記入例を配布していますので、適切な引継ぎのためのツールとして活用してください。

検索 移行支援シート「楽しい、豊かな学校生活を送るため」
http://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/shien/tokushi_tebiki/ikousten_sheet.html



情報を整理し、引き継ぐためのツール



特集② 外国語教育

資質向上を図るために



本年度は、小学校教員を対象として、英語教員スキルアップ研修を実施しています。

8月3日、28日の2日間に、絵本や歌を活用した活動例、教室英語やALTの打合せに活用できる表現など、今後の実践にすぐにつなげられるような有効的な研修となりました。

本研修は、県内の英語教育担当者の英語指導力の向上を図るために、原則として小学校では平成31年度までに、全ての学校から1人以上は受講することとされています。

地区内では、本年度で、小学校48校の教員が受講しています。

◆◆◆参加した先生方の感想◆◆◆

「2学期からの授業で、できるだけ多くの教室英語を使っていきたい」

「活動が多く有意義だった。すぐに授業に生かせる」

「校内研修で紹介し、先生方に自分の指導法として取り組んでもらいたい」



語彙や表現に慣れ親しませたり、習得したりするための絵本の活用の様子



新学習指導要領改訂のポイント(文部科学省より)

○ 小学校中学年における外国語活動導入の趣旨

高学年から、段階的に文字を読むこと、書くことを加え、**系統性をもたせた指導(年間70単位時間)**を行うことを踏まえ、**中学年から聞くこと、話すことを中心とした外国語活動(35単位時間)**を導入し、**外国語に慣れ親しませ、外国語学習への動機付けを高める。**

○ 小学校高学年における外国語導入の趣旨

中学年から聞くこと、話すことを中心とした外国語活動(35単位時間)を導入し、外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、**高学年から段階的に文字を読むこと、書くことを加え、系統性をもたせた指導を行う教科(年間70単位時間)**として位置付ける。

○ 中学校外国語科改訂の趣旨

互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う**対話的な言語活動を重視**する。

具体的な課題等を設定するなどして、学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実させ、言語活動の実質化を図る。

※ 小学校では、移行期間中(H30～31)に、中学年では、15単位時間、高学年では現行より15単位時間増加させた50単位時間の授業時数を確保し、平成32年度からの本格実施に向けての円滑な移行が必要となります。教育課程の編成に向け、計画的な取組をお願いします。